

YOKOHAMA PORTSIDE 30th ANNIVERSARY

ヨコハマポートサイド地区30周年記念誌



ヨコハマポートサイド地区30周年記念誌づくり実行委員会

ヨコハマポートサイド地区 30周年記念誌

YOKOHAMA PORTSIDE ANNIVERSARY



魅力あふれる街へと発展した30年 そして、更なる未来へ

ヨコハマポートサイド地区は再開発前までは、造船、工業、流通（倉庫）、漁業などの施設と住宅、店舗が混在した人情味あふれる下町でした。

再開発時、人とアートが調和する街として「アート&デザイン」をコンセプトとして1994年ヨコハマポートサイド地区がオープンしました。

2024年3月に30周年を迎え、ポートサイド地区に暮らす人々が未来に向けて楽しみ、ワクワクしながら自分たちの街のことを知り、この街が好きになっていく。

「この街の、ここが好き。」そこから始まる未来の街づくりにつながる記念誌として役立つことを願います。





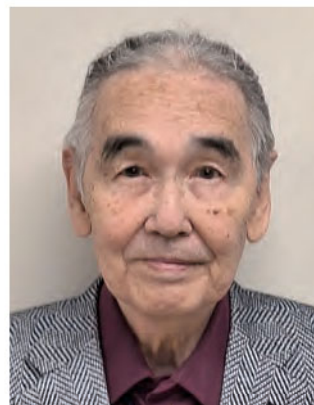
CONTENTS

グラビア写真	2	第4章	81
ごあいさつ	5	イベント	82
ヨコハマポートサイド地区30周年 記念誌づくり 実行委員会代表 中村 保次	5	街づくり	91
横浜市都市整備局都心再生部担当部長 千葉 健志	6	第5章	99
横浜市神奈川区副区長 松本 貴行	7	防災	100
ヨコハマポートサイド街づくり協議会 会長 二ノ宮 正光	8	第6章	103
第1章	9	未来に向けて	104
概要	10	第7章	109
街区	19	アンケート	110
第2章	35	第8章	115
歴史	36	30年の歩み	116
自然	45	人口	117
公園	49	人口の推移	117
神社	55	男女別人口	118
第3章	57	編集後記・奥付	120
再開発から現在	58		
Public Art	64		
環境と生活	74		
教育機関	76		

ごあいさつ

ヨコハマポートサイド地区 30 周年
記念誌づくり実行委員会代表

中村 保次



1981年（昭和56年）に21世紀をみすえた「みなとみらい21」開発事業計画が発表され、みなとみらい大通り（栄本町線）が神奈川地区（現ポートサイド地区）の中央部を縦断する事となりました。これにより、地元企業（後の「街づくり協議会」）、地元住民（「街づくりを考える会」）、都市開発専門家をまじえ協議が行われ、基本的な考え方として「安全で安心してくらすせる都市を目指し、横浜らしい個性的なまちづくり」を目標とされました。1994年（平成6年）から、横浜市施行の再開発事業として、地区中央部（約4ha）に、住宅を中心に、業務、商業、文化施設等の集積する複合市街地として再開発されてきました。

思い起こせば、この地区は、江戸時代は東海道五十三次の神奈川宿に隣接した地域で、当時は海でした。明治時代に横浜港の発展に伴って築港や埋め立てされ、明治の後半には現在の横浜港の一部として整備され、造船、工業、流通（倉庫）、漁業などの施設と住宅、店舗が混在した人情味ある下町として発展してきました。

現在、ヨコハマポートサイド地区再開発実施より30年を経て、各街区内において超高層ビルが次々に建設され近代的地区へと生まれ変わり、「ヨコハマポートサイド街づくり協議会」「各街区管理組合」「地区内自治会」他各種団体組織などの協力により街づくり協定として「アート＆デザイン」のコンセプトを遵守し、「ヨコハマポートサイド街づくり」を行ってきました。

この度、2024年（令和6年）に「ヨコハマポートサイド地区再開発事業」から30周年を迎えるにあたり、2021年（令和3年）に地区住民11名の有志により「ヨコハマポートサイド地区30周年記念誌づくり実行委員会」が起ち上げられ、「横浜市都市整備局都市再生部」「街づくり協議会」「街区管理組合」や他各種団体組織のみなさまの協力により、ヨコハマポートサイド地区再開発事業の経過をまとめた記念誌を発刊することになりました。この記念誌が、今後の地域発展に少しでも貢献できれば幸いと存じます。

ヨコハマポートサイド地区 30周年記念誌発刊を祝して

横浜市都市整備局都心再生部担当部長

千葉 健志

ヨコハマポートサイド地区 30周年記念誌の発刊にあたりまして、心からお祝い申し上げます。

ヨコハマポートサイド地区は、横浜駅東口に隣接する立地でありながら、国道や帷子川等によって周囲と分断され、倉庫、工場街としての利用にとどまっていた。

そこで、横浜市は、昭和40年に六大事業の一つとして、都心部強化事業を立ち上げ、ポートサイド地区とみなとみらい地区を一体で開発を進めることとし、都市計画道路「栄本町線」の整備を契機に、総合的な街づくりを開始しました。

それから30年、「ヨコハマポートサイド街づくり協定」に基づいて、地元や地権者の方々のご理解とご協力を頂いて、街づくりを進め、独自のコンセプトである「アート&デザイン」をテーマとした美しい景観を形成してきました。

その結果、2001年にはポートサイド公園が日本デザイン振興会のグッドデザイン賞、2015年には横浜ベイクォーターが横浜・人・まち・デザイン賞を受賞し、新しい街づくりが評価されました。

また、街づくり協定の推進運営母体として「ヨコハマポートサイド街づくり協議会」を組織し、地元の皆様を主体とした、特色あるきめ細かな街づくりが進められていることも、先駆的な取り組みとして、大きな評価を頂いているものと考えています。

これまで30年の長きにわたって、ポートサイド地区の街づくりにご尽力いただきました住民の方々、また30周年記念誌づくりに携われた実行委員会の方々に心より敬意を表し、今後のますますのご発展を祈念しております。

ヨコハマポートサイド地区 30周年記念誌発刊を祝して

横浜市神奈川区副区長

松本 貴行

このたびは、ヨコハマポートサイド地区30周年記念誌の発刊おめでとうございます。作成にあたって、実行委員会の皆さまにはさまざまな御苦労があったことと思います。皆さまの御努力に敬意を表します。

また、日頃から市政・区政の推進に御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ヨコハマポートサイド地区は、神奈川区の臨海部に位置し、市内最大のターミナル駅である横浜駅に接する都心臨海部としての位置づけを担い、都市型住宅を中心に、業務・商業・サービス及び文化機能等が集積する魅力あふれるまちとして発展を遂げてきました。

本市によるギャラリーロードやポートサイド公園等の水際線を活用した親水空間の整備がすすむとともに、地域の皆様の御理解と御協力によって、街づくり協定に基づいた形態や色彩の建物が建設されるなど、本市と地域の皆様との連携により、「アート&デザイン」をコンセプトとするこの地区らしい景観が形成されてきました。

更にこうした取組に彩りを添える、「公園フェスタ」や「アート縁日」などのイベントや活動を通して、マンションや企業の垣根を超えた地域の皆様同士の交流がすすみ、「顔が見える関係」が築かれてきたことも、この地区の素晴らしい特徴です。その交流は開発が行われたエリアにとどまらず、周辺の古くからの自治会町内会との間にも広がり、「幸ヶ谷地域まつり」などを通して地区全体の一体感を育まれている姿は、新たにお住まいになる方の多い神奈川区において、他地区の参考となるものと思います。今後も、地域住民の皆様や企業等の皆様との繋がりにより、一層のまちづくりが進められていくことを大変楽しみにしています。

今後のヨコハマポートサイド地区のますますの御発展と、地域の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

ごあいさつ

ヨコハマポートサイド街づくり協議会 会長

二ノ宮 正光

ヨコハマポートサイド地区 30 周年記念誌の発刊、誠におめでとうございます。

ヨコハマポートサイド街づくり協議会を代表して、ヨコハマポートサイド地区の歴史を記した 30 周年記念誌を制作していただいたことに、深く感謝申し上げます。

当協議会は、16 の企業・団体による地権者で構成されており、地区の街づくりの基本的な価値観を共有するために、平成元年（1989 年）に結ばれた「ヨコハマポートサイド街づくり協定」に基づき、街づくりを進めております。

業務・商業・住宅・サービス・文化などの施設の集積を図ってきたことに加え、開発当初から、「アート&デザインの街」を基本コンセプトとして、個性豊かな質の高い街づくりを目指してまいりました。

ヨコハマポートサイド地区を訪れると、コンセプトに沿って、様々なパブリックアートや建築デザインが、随所に織り込まれているのを感じていただけたと思います。隣接するみなとみらい地区とは趣の異なる、落ち着いたのある街並みが形成されてきたのではないかと感じております。

当協議会では「アート縁日」や「ひかりの街づくり」といった、地区内外の方々が参加いただけるアートイベントや、カジュアルなミニコンサートなどを開催し、こうしたイベント等を通じて、この地区に関わりのある様々な人と人との繋がりを生むことや、街のにぎわいイメージづくりに努めてまいりました。

ここ数年はコロナ禍でイベントの開催を見合わせ、地区の活動も停滞しておりましたが、今後はイベントなども再開し、ヨコハマポートサイド地区全体を盛り上げていく所存でありますので、引き続きよろしく願い申し上げます。